



雄山頂上です。体力がないと参拝できません。

全国一の宮めぐり

公立学校共済組合 東海中央病院 副院長・第一外科部長

日比 健志

学生時代から寺社仏閣巡りが好きで、その関係の仕事につきたいと思っていましたが、ブラックジャックという漫画に影響を受け大きく道を踏み外し、外科医というヤクザな仕事についてしまいました。それでも好きなことは止められないので、以後も事あるごとに各地の寺社を参拝し、美しい仏像に出合っただけで感動するといった生活を続けています。

少し前まで在籍していた大学では、教授という非常にストレスと雑用の多い仕事をしていたため、なかなかこうした参拝もできずにいました。しかし、今の職場に移ってからは時間的余裕もできてきて、再び寺社仏閣を求めて出歩くことが多くなりました。そして3年前からは一念発起して、全国一の宮めぐりを開始しました。

一の宮とは平安時代以降、それぞれの国で国司が最初に参拝することになった由緒ある神社のことで、今はその名前だけが残っています。何しろ1000年以上前に定められたものですので、今の社格から見ると高いものから低いものまでさまざまです。ただ一国に1カ所以上存在しますので、これを巡るとなると必然的に都市部から辺境まで日本中を散策すること

となります(写真1)。現在まで、すでに100カ所以上を訪れ、証拠として御朱印を集め、参拝できていないのは沖縄の波上宮のみとなりました。この稿では、その中から印象に残った神社を、写真と共に紹介していきたいと思います。

東北地区では、津軽国一の宮の岩木山神社を挙げさせていただきます。津軽富士である岩木山山麓の森閑とした地にある神社です。興味深いのは、通常は鳥居のそばで神社を警護している狛犬が、拝殿前の石柱に遊びに来ているところ(写真2)。

関東地区では、常陸国一の宮の

鹿島神宮です。こちらは社格が高く、数少ない神宮を名乗る神社です。ここには地震を起こすといわれる大鯨を、暴れないように押さえつけている要石という巨岩が埋まっています。地中にどれくらい大きさの石が埋まっているのかはわかりません(写真3)。

北陸地区では、越中国一の宮の雄山神社でしょうか。雄山は立山連峰の主峰であり、神社はその頂上(海拔3000m)にあります。つまり本格的に登山をしないとたどり着けません。いい経験をさせてもらいました(タイトル写真)。

私が現在住む東海地区では、志



写真1 日本地図に旧国名と一の宮が記されています。

写真2
岩木山神社拝殿前です。狛犬が門柱に逆さに彫られています。





写真3
要石。地上には10cm程しか顔を出していません。地中には何mあるのか。



写真4
海から見た伊射波神社です。地図を見ると船でしか近づけそうありません。



写真5
三輪山への登り口です。神様の山ですので裸足で登る方もみえました。



写真6
石上布都魂神社の社務所です。神主さんが御朱印を書かれている間に、十握剣の模型に触らせてもらいました。



写真7
漁船に揺られて沖ノ島に到着。すでに禊が終わって沖津宮に向かうところです。

摩国一の宮の伊射波神社を紹介します。海に面した神社で大変わかりにくい場所にあり、カーナビを使いませしたら行き止まりに案内されました。結局、電話で神主さんに神社近くの駐車場に至る道を聞きました。山麓を大きく一回りして車を駐車場に置き、そこからは海岸線を延々と歩いて行きました(写真4)。ちなみにここもそうだったのですが、神主さんが神社に常駐していない場合は、神社参拝するだけでなく、別の場所にある神主さんの自宅まで御朱印をいただきに行きます。

近畿地区では、大和国一の宮の大神社です。こちらには本殿がなく、三輪山を御神体として拝殿から山を拝む、わが国最古の形式をとる神社です(写真5)。写真にある登拝口より三輪山に登りました。頂上には古代の遺跡として

の磐座がありました。何分御神体を登る訳ですから、信仰の厚い方は裸足になり祝詞を唱えながら登山されていました。

中国地区では、備前国一の宮の石上布都魂神社。山奥に鎮座しており、普段訪れる人はほとんどいないと思います。ここには素戔鳴尊が八岐大蛇退治に使用した十握剣が祀られています。写真は模型です(写真6)。隣では神主さんが御朱印を書いてくれています。退治の際大蛇の尾から得られた天叢雲剣(三種の神器の一つ)は、名古屋の熱田神宮に祀られています。

九州地区では一の宮ではないのですが、昨年抽選に当たり、宗像大社沖津宮を参拝することができました。沖津宮のある沖ノ島はその後、世界遺産の暫定リストに載りましたので、ご存じの方も多いかと思います。沖ノ島は九州と韓

国の中間地点に位置する絶海の孤島です。古くから神聖な島として崇められ、現在も1年に1回、男子約200名のみ上陸を許されています。島においても鳥居を越えて神聖な領域に入る前には、素っ裸になって海で禊をしなければなりません。そのように厳重に守られてきた島ですので、古代の祭祀遺跡が手付かずに残されており、遺物はすべて国宝に指定され海の正倉院と呼ばれています(写真7)。大変貴重な経験だったと思います。

その他にもたくさんの有名な神社や辺境の神社を訪れました。この稿を読まれて興味を持たれましたら、ぜひ参拝されてご自身の目でご確認ください。またこうした神社の近くには多くの観光地がありますので、これらも一緒に訪れると一層楽しい散策になるかと思